

ほぼ完全な形で残っている江戸時代の道しるべ

真金一里塚



指定区分	国指定史跡
読みかた	まがねいちりづか
所在地	岡山市北区吉備津
指定年月日	昭和3年3月24日
解説	備前・備中の国境に近い旧山陽道沿いにある。道路を挟んで両側に塚があり、崩壊を防ぐため北塚に黒松、南塚に榎が植えられていた。(枯死のため、今は若木。)一里塚は、江戸時代の主要街道の一里ごとに道標として築かれたものである。多くは道路拡張などで消失しているが、真金一里塚はほぼ完全な形で残されている。
アクセス方法	JR吉備津駅から約0.6km
公開状況	自由
設備	
備考	岡山城下から西に向かい、万成について2番目にあった一里塚です。近隣の板倉の宿の町並みとあわせ、当時をしのばせる風景となっています。

きつずページ



していくぶん (指定区分)	国指定史跡
ぶんかざいめい (文化財名)	真金一里塚
よみかた	まがねいちりづか
しょざいち (所在地)	岡山市北区吉備津
していつひ (指定した日)	昭和3年3月24日
せつめい	一里塚(いちりづか)とは江戸時代(えどじだい)のおもな道路(どうろ)の道しるべとして、一里ごとに塚(つか)を築(きづ)いたものです。一里はおよそ4キロメートルです。くずれにくいようにエノキやマツなどが植(う)えられました。真金(まがね)一里塚は、今でもほとんど壊(こわ)されることなく残(のこ)されています。